

産科医療体制検討専門委員会

(令和4年度)

産科医療体制検討専門委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 産科医療体制検討専門委員会

委員長 工藤 美樹

産科医療においては、産婦人科医の減少や少子化などの環境の変化がある一方で、働き方改革が求められている。その中で、第8次保健医療計画の策定に向け、質の高い安全な周産期医療体制を維持していくために、今後の産科医療体制の在り方について検討を行った。本年度は会議の開催は一回のみであった。

I. 第8次保健医療計画における医療資源の集約化・重点化について

周産期医療は、妊娠、出産、産後の母子の保健・医療、小児に対する医療など連続的に関連している分野であることから、次期保健医療計画に関する協議・検討は産科と小児科で共同して進めることが望ましいと考えられる。産科については、本委員会において数年間にわたり産科医療資源の集約化・重点化について検討してきた。その結果、各圏域において中核となる病院は、すでに指定を受けている総合

および地域周産期母子医療センターを基本に検討することが望ましいとの結論であった(表)。

また、将来的には医療圏域を超えた連携が必要になる可能性があり、従来からの「広島と広島西」に加え「備北」,「呉と広島中央」,「尾三と福山・府中」の3つのエリアを設定し、周産期医療を確保していくことが提案された。

II. 今後の活動について

前述したように周産期医療は産科と小児科が共同して関与する分野であり、本委員会ならびに地対協小児医療体制検討専門委員会での議論を踏まえ、各圏域地対協において議論いただき、次年度は「広島県周産期医療協議会」と小児医療合同会議(「周産期・小児医療協議会」として組織設置することも検討)において整理し、次期保健医療計画の「周産期医療対策」,「小児医療(小児救急医療を含む)対策」について検討を行っていく予定である。

【各圏域の中核となる病院】

※ 地域の中核となる病院：拠点性が明確な地域周産期母子医療センターが認定されている医療機関をベースに検討してはどうか。

圏域	平成18・19年の検討における集約化・重点化の方針等 (産科医療提供体制)	次期保健医療計画における 中核となる病院について
全県	○ 総合周産期母子医療センター ○ 救命救急センター	同左 ※小児救命救急センター(新病院基本構想)
広島	・ 北部をカバーする安佐市民病院を含め、3か所程度 ・ 医師の供給見通しや <u>他圏域を補完する必要性</u> 等を勘案	→「高度医療・人材育成拠点の整備」に伴う医療機能再編と合わせた整理が必要ではないか。
広島西	・ 1か所 ・ JA広島総合病院の強化と合わせ設定	
呉	・ 医師の供給見通しや <u>他圏域を補完する必要性</u> 等を勘案し、2か所程度	→ <u>広島中央圏域の拠点整備を踏まえ、圏域に具体の検討を求めることとしてはどうか。</u>
広島中央	・ 1か所 ・ 産科医療体制の確保方策について、引き続き検討	・ <u>現状から「東広島医療センター」ではないか。</u> ※地域周産期母子医療センターに認定(平成24.10)
尾三	・ 1か所 ・ JA尾道総合病院の強化の強化と合わせ設定	・ <u>現状から「JA尾道総合病院」ではないか。</u>
福山・府中	・ 圏域の人口等を勘案すると2か所程度が望ましいが、 <u>医師の供給見通しや地域の実情</u> を考慮すると1か所	→ <u>圏域に具体の検討を求めることとしてはどうか。</u>
備北	・ 1か所 ・ 市立三次中央病院の強化と合わせ設定	・ <u>現状から「市立三次中央病院」ではないか。</u>

表

広島県地域保健対策協議会 産科医療体制検討専門委員会

委員長 工藤 美樹 広島大学大学院医系科学研究科産科婦人科学
委員 青江 尚志 福山市民病院
今井真由美 広島県健康福祉局医療介護政策課
入江寿美代 広島県助産師会
児玉 順一 広島市立広島市民病院
坂下 知久 J A尾道総合病院
田中 教文 東広島医療センター
土谷 治子 土谷総合病院
寺本 秀樹 庄原赤十字病院
豊田 紳敬 広島県産婦人科医会
中西 敏夫 広島県医師会
中西 慶喜 J A広島総合病院
藤本 英夫 市立三次中央病院
藤原 久也 中国労災病院
水之江知哉 呉医療センター・中国がんセンター
茗荷 浩志 広島県医師会
三好 博史 県立広島病院
向井百合香 広島大学大学院医系科学研究科産科婦人科学
山本 暖 福山医療センター